

学生海外調査研究	
(中国) 国共内戦期土地改革の中の農村女性	
李 亜コウ	ジェンダー学際研究専攻
期間	2014 年 9 月 8 日～2014 年 9 月 24 日
場所	北京市、石家荘市、滄州市、青県、河間市
施設	河北省档案馆、青県档案馆

内容報告

1. 研究の背景

1920年代末から1950年代初までの中国革命は、中国共産党が指導する新型農民戦争とも呼ばれる。もし革命の政治的側面は、中国共産党の指導する人民民主独裁が中国国民党の一党支配を取って代わる、と要約できるならば、ほとんどの空間と人口を持つ農村の立場からいえば、革命の社会的側面は土地改革である。それは近代中国を理解するときに、避けて通れない事実の一つである。

第三次国内革命戦争（1946-1949）（以下、国共内戦と略す）が勃発すると、中国共産党が土地改革を戦争動員の基本条件と見なし、そして 1946 年に五・四指示を出した。五・四指示は抗日戦期以来の減租減息政策から土地改革に転換したことを意味する。こうして、壮年労働者が前線に行ったために、女性が銃後で留守を守りつつ、生産を維持せざるを得なくなった。解放区での土地改革に多くの女性たちが参加し、1947 年 9 月に女性動員が政策として打ち出された。同年 10 月公布の「中国土地法大綱」には、男女に土地を平等に分配する原則が盛り込まれた。

従来の中国の土地改革研究は、女性動員が不可視なままに置かれた、男性中心的な分析がほとんどである。フェミニズムの視点からみる中共の女性動員の研究はすでにいくつかなされているが、土地改革自体の複雑さや資料の不足によって、一面的かつ断片的に女性動員が描かれた。女性動員をより正確に理解するためには、国共内戦期は中共の女性運動の転換期の 1 つとして再検討される必要がある。国共内戦期の女性政策を検討することは、建国以降の中共の女性政策を理解する上で大変重要である。国共内戦期において、女性政策と土地改革との結合は、女性動員の中心的な任務であった。延安整風以降に生産運動一筋に集中し窮地に陥っていた中共の女性政策は、土地改革（つまり農民運動）と結合することで、全党をあげた取り組みになることができた。中共中央の一部は、女性解放を実現するには女性はまず経済的に独立しなければならないと考えた。

以上の点から、中共の女性政策や女性動員を再検討する必要がある。筆者が 2014 年 1 月に、慶應義塾大学に提出した修士論文では、中国の国共内戦期土地改革の中での女性動員を主に政策決定過程、ジェンダー秩序という二つの側面から見た。本研究は修士論文から得られた知見を生かしながら、女性動員を個人への影響という側面から見ることを目的とする。つまり、本研究の目的は、農村女性が国共内戦期土地改革における女性動員をどのように記憶しているかを明らかにすることである。

2. 先行研究

内戦期の土地改革における女性動員に関する先行研究は多くないが、たとえば、中華全国婦女連合会編『中国婦女運動史—新民主主義時期』、趙効民『中国土地改革史』、董志凱『解放戦争時期的土地改革』などがある。これらの書籍の中に、内戦期の土地改革における女性動員への言及があるが、踏み込んだ議論は展開されていない。地方誌では、各地の女性動員について詳細な記載があるが、まとめて分析したものは見当たらない。論文についても決して多くない。中国人研究者による研究の多くは「中国女性は民族解放と階級解放を勝ち取る革命に多大な貢献と犠牲をなして、革命後、法律上、男性と平等な地位と多くの権利を獲得した」という歴史観で貫かれている。魏紅偉の「解放戦争時期晋察冀辺区土地改革中婦女運動探析」では、大量の一次資料が駆使されているが、「マルクス主義婦女観」を受け継いだため、女性動員の功績を誇張し、動員が残した課題に対する客観的な分析は回避されている。

1970年代から欧米の学者たちは、中国女性に関する社会科学的研究を始め、中国女性の社会経験の諸相を描き出した¹。そこでは、土地改革と女たちの翻身（解放されて立ちあがること）が中国共産党の最後の勝利と結びつけられ、称賛された。この時期の研究の特徴は、英語圏や日本で出版された土地改革の体験記をもとに書かれたということである。韓丁の『翻身』であれ、福地いまの『私は中国の地主だった：土地改革の体験』であれ、ある特定の地域で行われた土地改革の体験をもとに記されているため、これらの体験記を用いた研究は土地改革や女性動員を全般的に把握することができなかった。1970年代末に改革開放政策が実施され人民公社が解体されると、学者たちは、社会主義の革命や制度が性差別を消滅させたのか、階級解放と性解放の間には矛盾があるのかなどの疑問を抱き始めた²。そして彼らが研究を進めるにつれ、土地改革における女性動員に対して悲観的な評価が多数を占めるようになった。それは、女性は土地改革への参加に動員されたが、彼女たちを抑圧する父権中心的な権力構造は依然として変わらなかったという見方である。さらに、社会主義的家父長制（Patriarchal-Socialism）の存在をめぐる議論も繰り広げられた。しかし、以上の議論の中で、土地改革における女性動員の主役である農村女性からの視点を欠けているため、女性動員を正確に理解することができない。本調査研究では、農村女性が国共内戦期土地改革における女性動員をどのように記憶しているかを明らかにすることにある。ここでは、中国女性第一回全国大会の記念品として贈呈された書籍である『中国婦女大翻身』の中で、土地改革における女性動員の成功例として上げられた地域の一つである冀中区を調査研究の地域とし、特に冀中区第八専区の女性動員の状況を分析する。

3. 研究方法

3-1 フィールドワークの概要

2014年9月8日から24日にかけて、河北省中部の滄州市・青県・河間市の周辺農村在住の、国共内戦期土地改革を経験した80歳以上の女性15名を対象に、半構造化インタビューを行い、村における土地改革の女性動員の具体的実践状況、調査対象者の「土地所有権」の有無、土地売買が可能であったか否か、婚姻、移動、労働生活などについて聞き取りを行った。同じく土地改革を経験した男性若干名に対してもインタビューを実施した。河北省中部は方言があるため、標準語と現地の方言両方話せる人に

付き添ってもらった。調査対象者の選定はスノーボールサンプリングによって行われた。まず、道端で雑談しているお婆さんや市場で販売をしているお爺さんに土地改革を経験した親しい人がいないかと聞いた。そこで上げられた人に対して、さらにチラシを配った。調査の承諾を得るため、チラシに沿って、自己紹介、研究テーマ、研究の目的・意義、研究方法、インタビュー時間、倫理上の配慮などを口頭で説明した。インタビュー調査に際して、調査対象者にインタビュー協力承諾書を渡して文書と口頭で説明の上、承諾書への署名をもらった。インタビュー調査場所は調査対象者の要望により調査対象者の自宅等で行うことが多かった。インタビューは、1時間から2時間にわたった。

表1 「調査対象者の内訳」

番号	調査対象者（仮名前）	性別	日付	場所
1	張書琴	女	2014年9月11日	滄州市
2	王殿芬	女	2014年9月13日	皮庄子村
3	李俊風	女	2014年9月13日	皮庄子村
4	朱繼達	男	2014年9月13日	皮庄子村
5	連春鳳	女	2014年9月14日	固庄子村
6	肖春	女	2014年9月15日	後仔儀村
7	周秀英	女	2014年9月15日	後仔儀村
8	杜華	男	2014年9月16日	大院村
9	張樹祥	男	2014年9月16日	大院村
10	陳永橋	女	2014年9月18日	大店村
11	魏文斌	男	2014年9月18日	大店村
12	趙明山	男	2014年9月18日	大店村
13	李秀文	女	2014年9月18日	大店村
14	任紅	女	2014年9月18日	大店村
15	吳棉	女	2014年9月18日	大店村
16	何素梅	女	2014年9月18日	大店村
17	劉漢芳	女	2014年9月19日	南中原
18	金五辰	男	2014年9月19日	南中原
19	林洪志	男	2014年9月19日	南中原
20	石太	女	2014年9月19日	南中原
21	林士宗	男	2014年9月20日	東沙洼村
22	韓喜芬	女	2014年9月20日	東沙洼村
23	王淑欣	女	2014年9月20日	東沙洼村

3-2 半構造インタビューの内容

表 2 「半構造インタビュー」

1	土地改革を経験しましたか。土地改革の具体的実践状況を教えてください。
2	女性動員を経験しましたか。女性動員の具体的実践状況を教えてください。
3	男女を問わず、人ごとに土地を分配しましたか。土地は一人あたり何ムー分配されましたか。土地売買は可能でしたか。土地所有権証明書はまだ保存していますか。
4	結婚しましたか。子供は何人いますか。子育ては大変でしたか。
5	今年何歳ですか。生まれた年の干支は何ですか。
6	農作業、家事労働はどのように変わったのか。
7	当時、何人家族でしたか。両親は何をしていましたか。
8	土地改革後、外に出て働きましたか。

3-3 分析方法

今回の調査研究では、農村女性たちは国共内戦期土地改革において、如何に動員されたのか、特に婚姻、子育て、農作業、家事労働、移動などがどのように変わったのかについてインタビューした。それらの大部分はジェンダー化された領域であり、女性たちの記憶にある経験は男性とは異なる。彼女たちの口述に加え、土地改革に加わった女性たちについて書かれた出版物や、省や県の档案馆で収集した政府レポートや内部記録なども補足的に用いる予定である。それを踏まえて、オーラル・ヒストリーを駆使したアメリカ・台湾・日本のジェンダー史研究も参考にしたい。

4. まとめ

このたび、平成 26 年度「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムの支援により、調査研究を行うことができたことに対して、心より感謝申し上げる。

本調査研究は、16 日間にわたり、中国河北省中部の農村で農村女性を対象にインタビューしたものである。ほとんどの村には旅館がなかったから、村から 10 キロ以上離れた県のバスセンター近くのホテルに泊まった。前日に調べた路線の早朝バスに乗った。バスは霧が降った細い村道を走った。調査対象者の選定はスノーバールーサンプリングによって行う予定なので、最初声掛けして信頼を得るのは困難であった。秋の収穫期を迎えるため、普段都市へ出稼ぎに出ている村の中青年者も帰っていた。昼間、家族は皆家の外でとうもろこしを干したり、とうもろこしの皮を剥いだりする光景が村の中ではありふれていた。とうもろこしの収穫を手伝うお婆さんがいれば、外で雑談するお婆さんもいた。村人にとって親しみのあるとうもろこしや棗などの収穫農産物についての話から声掛けするのが一番受け入れやすかった。時には折よく 5 日に一回開く市場のなかで販売していたお爺ちゃんに土地改革の経験者の紹介をお願いしたら、熱心に教えてくれたこともある。逆に、昔国民党黨員が多い村に訪ねた場合、村人に土地改革の経験者がいないかと聞いたら、不審な目で見られ、断られたこともある。

農村女性が高齢で一人である場合、彼女の息子たちは交替で一緒に暮らすことが一般的に見られる。やむを得ず調査対象者になった農村女性の息子さんを挟んでインタビューした場合もある。階級区分によって、女性たちが記憶した土地改革や婦女動員は異なる。家庭内労働／家庭外労働の忙しさや運動の激しさは、彼女たちが土地改革に言及した時の主題にもなった。

5. 今後の課題と公表の予定

今まで改革開放は中国の資本主義的近代化の始まりとされてきた。マリア・ミースは、社会主義国家では開発過程の真の基盤となっているのは女性の労働量であると指摘している(マリア・ミース,1997)。マリア・ミースによって発展されたローザ・ルクセンブルクの『資本蓄積論』(2011)を中国に当てはめた場合、中国共産党による土地改革をどう見るかは博士論文で取り扱う課題である。本調査研究の成果は博士論文の第二章「1950年の土地改革」で執筆する予定である。今回の調査内容をもとにまとめた論文(仮テーマ:ジェンダーメモリーからみる婦女動員)は『日本オーラル・ヒストリー研究』第11号に投稿する予定である。また、国際学会(IAFFE)での報告も予定している。

注

- ¹ Davin, Delia. 1973. "Women in the Liberated Areas." In *Women in China: Studies in Social Change and Feminism*, Young, Marilyn B., ed. Ann Arbor: Center for Chinese Studies, University of Michigan, pp. 73-91. Davin, Delia. 1975. "Women in the Countryside of China." In *Women in Chinese Society*, Wolf, Margery, Roxan Witke, eds., Stanford Calif.: Stanford University Press, pp. 243-273. Davin, Delia. 1976. *Woman-work: women and the Party in revolutionary China*, New York: Oxford University Press. Croll, Elisabeth J. 1978. *Feminism and Socialism in China*, London; Boston: Routledge & K. Paul. 小野和子(1978)『中国女性史: 太平天国から現代まで』平凡社。
- ² Andors, Phyllis. 1983. *The Unfinished Revolution of Chinese Women*, Bloomington: Indiana University Press. Johnson, Kay Ann. 1983. *Women, the family, and peasant revolution in China*, Chicago: University of Chicago Press. Stacey, Judith. 1983. *Patriarchy and Socialist Revolution in China*, Berkeley: University of California Press.

参考文献

- クラウディア・フォン・ヴェールホフ(2004)『女性と経済: 主婦化・農民化する世界』(伊藤明子訳)日本経済評論社。
- デヴィッド・ハーヴェイ(2011)『<資本論>入門』(森田成也、中村好孝訳)作品社。
- ローザ・ルクセンブルク(2011)『資本蓄積論: 帝国主義の経済的説明への一つの寄与。第三篇、蓄積の歴史的諸条件』(小林勝訳、『ローザ・ルクセンブルク選集』編集委員会編)御茶の水書房。
- マリア・ミース(1997)『国際分業と女性: 進行する主婦化』(奥田暁子訳)日本経済評論社。

り あこう／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

指導教師によるコメント

本研究は、報告者が修士論文において取り上げたテーマを、よりジェンダー分析の視点を明確に取り入れ、新たな知見の発掘を目指すものである。現代中国において、土地改革に対するジェンダー分析の重要性は、近年急速に認識されているようであるが、本格的な研究は未だ少ないのが現状である。本研究が、当該プログラムによる助成を得て、土地改革経験者の農村高齢女性からの直接の聞き取りにもとづくことによって、文書や資料において断片的な理解や「公式理解」に留まっていた段階から、現実の経験を言語化し記述することによって、従来とは質的に異なる理解と洞察を得ることが期待される。また、現在、欧米の研究では、生存維持経済にたいする国家介入の諸方法、とりわけ土地の領有と家族成員の位置づけ、ジェンダー化された社会集団形成などに興味深い研究が出てきている。これらの、現在の国際的かつ先端的研究からの知見も踏まえ、今後の研究成果が期待される。

(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・足立眞理子)

China Rural Women in the Land Reform (1946-1948)

YAJIAO LI

Recently, the studies of the land reform which was carried out in the liberated area before 1949 have attracted Chinese historians' attention. However, there is little about the studies on the mobilization of women which appeared during the land reform. How did rural women recall the days of the land reform? In the research, I will explore the changes in the lives of fifteen elderly women in rural Hebei Province during the land reform. In showing what memories can tell us about gender as an axis of power in the end of 1940s rural China, I will examine how the state intervened in the subsistence economy.